南木曽路

歴史の道

お問い合せ先

南木曽町観光協会

〒399-5301 長野県木曽郡南木曽町読書3668-1

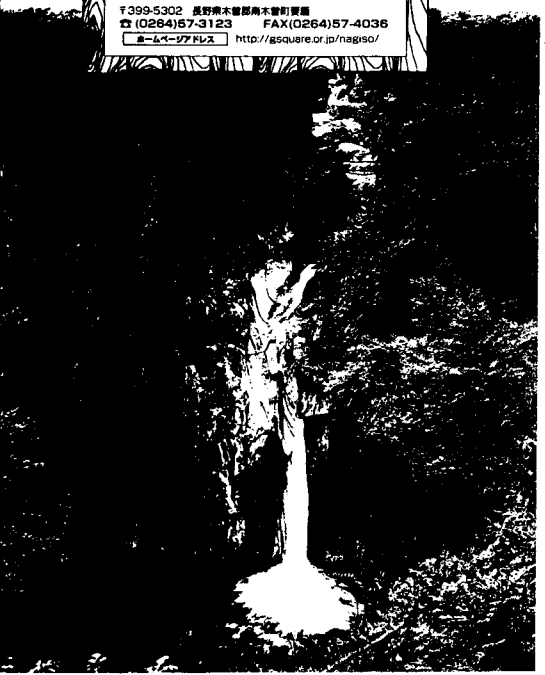
☎(0264)57-2001(代) FAX(0264)57-2270

妻籠宿観光案内所

〒399-5302 長野県木曽郡南木曽町吾妻

☎(0264)57-3123 FAX(0264)57-4036

ホームページアドレス http://gsquare.or.jp/nagiso/



南木曽駅ー三留野宿ー与川道ー野尻駅

和合の枝垂梅（34）

江戸時代、木曽谷有数の酒造家遠山氏の庭木として愛育されてきた古木である。

園原先生碑（35）

三留野東山神社神宮の家に生まれた儒原旧富は、江戸中期の有数の学者で尾張・美濃・信濃に門人多数を擁していた。

三留野宿本陣跡 枝垂梅（36）

本陣は明治十四年（一八八一）の大火で焼失してしまったが、駐木として愛育された枝垂梅の古木が残っている。

古典庵 木曽八景「与川の秋月」（30）

仲秋の名月はここから眺めると、周囲の地形とあいまって大きくみえることである。またここは江戸時代初期に僧坊古典庵のあったところであり、良寛の歌碑が建てられている。

松原御小休所（32）

御小休所は、高貴な方が通行する際休憩所として、見晴らしのよい場所などに設けられた。

阿弥陀堂（33）

境内には、庚申碑・巡礼菩提碑・名号碑などの石像が多く、古いものは元禄五年（一六九二）のものがある。

らんかん橋（34）

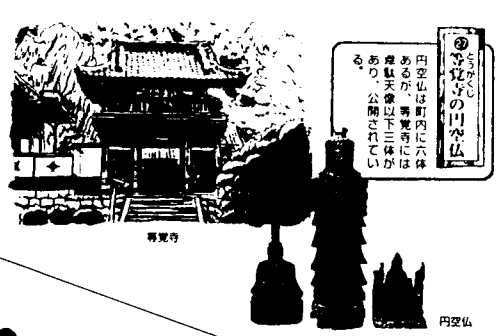
江戸時代、ここには橋干を備えたりっぱな橋があったという。江戸の将軍家へ輿入れする京の姫君の通ったところであろう。

等覚寺の円空仏（37）

円空仏は町内に六体あるが、等覚寺には韋駄天像以下三体があり、公開されている。

廿三夜塔（29）

二十三夜の遅い月の出をおがみ、豊作などを祈る民俗信仰である。



根の上峠（38）

与川と野尻の境の峠で、かつてはここにも御小休所が設けられていた。

石仏道標（35）

宝暦十一年（一七六一）の石仏に、「右やまみち、左のぢり道」と刻まれている。

白山神社の大杉（31）

大杉は二本あり、一本は目通り周囲八・二メートル、他の一本は六・七メートルでともに巨木である。

イボとり観音（十二兼観音）（37）

この観音堂にある木の軸でイボをこすると、イボがとれるという。毎年八月十四日には、観音堂境内を出発して十二兼中をまわって歩く百万遍念仏（町無形民俗文化財）が行われる。

歩危（42）

文字通り危険な道。古い街道の険阻な所に多い地名である。

悲しめる乙女の像（39）

昭和二十八年七月の伊勢小屋沢の蛇抜け（山津波）犠牲者を悼んでつくられたものである。

福沢桃介記念館 山の歴史館（38）

電力王福沢桃介の別荘に、遺品などを展示して公開している。大正十一年（一九二二）の建築で川上貞奴とともに滞在していた。山の歴史館は、旧御料場名古屋市庁舎・要蔵間に出張所の建物で、民物を復元し、現在、山に関する資料館として公開している。

八剣神社（43）

境内の大杉は、木曽では珍しい熊野杉で樹令五百七十年余。四本の杉が一株になっていて「よすぎ」ともいわれている。

天白公園（40）

つつじの名所、五月初旬が見頃。

柿其観音堂（45）

江戸時代中期に、飢饉のため餓死した旅人や村人の供養のため建立された。

柿其渓谷（48）

約八キロメートルにわたって、滝あり瀬あり淵ありの変化に富んだ美しい渓谷である。自然歩道は、牛ヶ滝までの約五百メートルが整備されている。

恋路峠（49）

柿其の美しい女性をしたって他村の男衆が越えてきたのでこの名がついたという。

柿の家（47）

町内の古民家を移築したもので、シーズンには五平餅や鱒料理が食べられる。

きこりの家（46）

江戸末期の文久四年（一八六四）に建てられた民家を解体復元した。昔の生活が体験できる。

柿其水路橋（国重文）（44）

読書発電所へ発電用の水を送る水路で、谷を渡る壮大な構造物である。

信濃路自然歩道（川西古道）のみどころ

南木曽駅ー柿其渓谷ー野尻駅

福沢桃介記念館 山の歴史館（38）

電力王福沢桃介の別荘に、遺品などを展示して公開している。大正十一年（一九二二）の建築で川上貞奴とともに滞在していた。山の歴史館は、旧御料場名古屋市庁舎・要蔵間に出張所の建物で、民物を復元し、現在、山に関する資料館として公開している。

桃介橋（国重文）（41）

福沢桃介が、水力発電開発のためにかけた吊橋で全長二四七メートルの木製の補網トラスを持つ吊橋としては、日本で最大・最古の物である。（平成五年復元）